



臓器移植、特に心臓移植などではしばしば「脳死」について話題になります。また「脳死」は人の死か？という問題についても様々な意見を持つ方がいらっしゃいます。人はそれぞれに多様な生活背景、価値観がありますので、それぞれに違った考え方があっても、もっともなことだと思います。

今回は、「脳死」とは何か、どんな状態をさすのか、皆さんに理解していただきたいと思います。

まず、意識について考えてみましょう。ここでは少し大胆ですが2段階に分けてみます。

1段階、いわゆる「目覚めている状態」です

2段階、そして「自分と周りのことがわかっている状態」です

イメージしてみましょう。

打ち上げ花火を想像してみてください。夏の夜空に向かって小さな火の玉が「ひゅるひゅるひゅる〜っ」とのぼり、そして夜空いっぱいに「ぱ〜ん」と広がります。小さな火の玉が空にむかって「ひゅるひゅるひゅる〜っ」とのぼる、これが第一段階、「目覚めている状態です」。これは脳の真ん中にある一本の棒、脳の幹、「脳幹」に相当します。そして夜空いっぱいに「ぱ〜ん」と広がる、これが第二段階、「自分と周りのことがわかっている状態」です。これは左右に大きく分かれて存在する「大脳」に相当します。

つまり「意識」は第一段階、脳幹で「ひゅるひゅるひゅる〜っ」とのぼり「目が覚め」、第二段階、大脳で「ぱ〜ん」と広がり「自分と周りのことがわかる」ようになります。

では、意識が脳幹を「ひゅるひゅるひゅる〜っ」とのぼっても、大脳で「ぱ〜ん」と広がらなければどうなるでしょう。「目が覚めている」けれども「自分と周りのこと」がわからない状態です。少し大胆ですが、これがいわゆる「植物状態」です。脳幹の機能は残っていますので自力で呼吸をしたり、睡眠覚醒のリズムがあったり、簡単にめでものを追うということはできても、「自分と周りのこと」が理解できない。これがいわゆる「植物状態」です。

「脳死」と何が違うのでしょうか。「意識」な脳幹を打ち上げ花火のように「ひゅるひゅるひゅる〜っ」とのぼり「目が覚め」、大脳で「ぱ〜ん」と広がり「自分と周りのことがわかる」ようになります。「脳死」ではこの最初の「ひゅるひゅるひゅる〜っ」と脳幹を上ることすらできない、つまり全く火のともらない花火、脳幹、大脳を含むすべての脳のはたらきがなくなった状態です。これが「脳死」です。

「脳死」ではどんな治療をしても回復することはなく、人工呼吸器などの助けがなければ振動は停止します。回復する可能性のある植物状態とは全く異なる状態です。

欧米をはじめとする世界のほとんどの国では「脳死は人の死」とされ、大脳、小脳、脳幹のすべての機能が失われた状態を「脳死」としています。イギリスのように、脳幹のみの機能の喪失を「脳死」としている国もあります。日本では、脳死での臓器提供を前提とした場合に限り、脳死は人の死とされます。

次回は「脳死」についてもう少し詳しく考えてみましょう。